

# イラスト作成でのワードに対するパワーポイントとの優位点 (Office2016の場合)

## 1. 用紙サイズが大きい

- 最大用紙サイズはワードが 縦横55.87cmだが、パワーポイントは 縦横142.24cmになっている。
- ワードでは大きな作品をつくれなない。

## 2. グループ化が簡単

- 描画キャンバスを必要とせず、オブジェクトの選択の必要もなく、ボックスでグループ化できる。

## 3. グリッド線の機能がある

- グリッド設定、ガイド線、スマートガイドなどの機能がある。

## 4. スポイト機能が使える

- 参考画像と同じ色にしたい場合などにスポイト機能が使える。

## 5. 図形の接合・切断機能がある

- 図形を組み合わせて、接合や切断ができるので、簡単な図形から複雑な図形を作成できる。

## 6. ステージコンストラクションがしやすい

- 画面の左にあるアウトライン表示を利用して、段階的な作品づくりがしやすい。
- コピーしたオブジェクトを別のシートに張り付けると、同じ位置に置かれる。

## 7. 図のファイル保存機能がある

- 図形（単一、グループした図形）を右クリックして、画像として保存できる。

## 8. アニメーション機能

- グループ化した図形をパーツにしたアニメーションを作成でき、動画ファイルとしても保存もできる。
- 必要に応じてナレーションも入れることができる。

# 参考画像をスライドの背景レイヤーにする方法

- 参考画像の複製画などを作成する場合、マウス操作の際にしばしば参考画像を誤って動かしてしまったり、コピーしたりしてしまうことがあります。また、画像内の図形をグループ化する際にボックスで図形選択できないなどの問題もあってとても不便です。
- パワーポイントにはレイヤー機能がありませんが、参考画像を「背景図」にして利用すれば背景レイヤーとして扱うことができ、上記のようなことが避けられます。

1. 参考画像の横縦のピクセル数を調べる（図1）
2. 新規スライドを作成し、パワーポイントのスライドのサイズを参考画像の縦横比に合わせる（図2）
  - 右の画像の場合の場合、例えば横78.6cm、縦53.2cmにする
3. スライドのサイズと同じサイズの長方形を描き、面塗り＝白、線＝無しにする。（白色長方形）
4. 参考画像をパワーポイントに読み込む
5. 参考画像を適度な大きさに拡大/縮小し、周囲に数cmの余白を残す
6. スライド全体を選択し、白色長方形と参考画像をグループ化し「図として保存」する。図の名前は適当につけておく。
7. スライドからグループ化した「白色長方形+参考図」を削除して、白紙スライドに戻す。
8. デザイン→背景の書式設定→塗りつぶし→ファイルで、保存した図を読み込む（図3）
  - これにより、見た目に「白色長方形+参考図」と同じ背景図が設定されます
  - これは背景図なので、間違っても移動したり、コピーしてしまったりすることがありません
  - 必要に応じて、背景図の透明度をあげることもできます。



図1

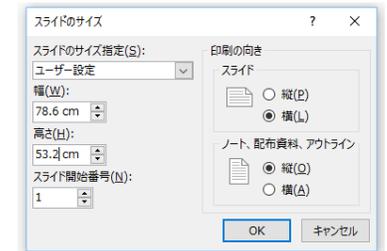


図2

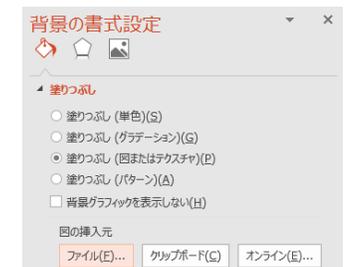


図3

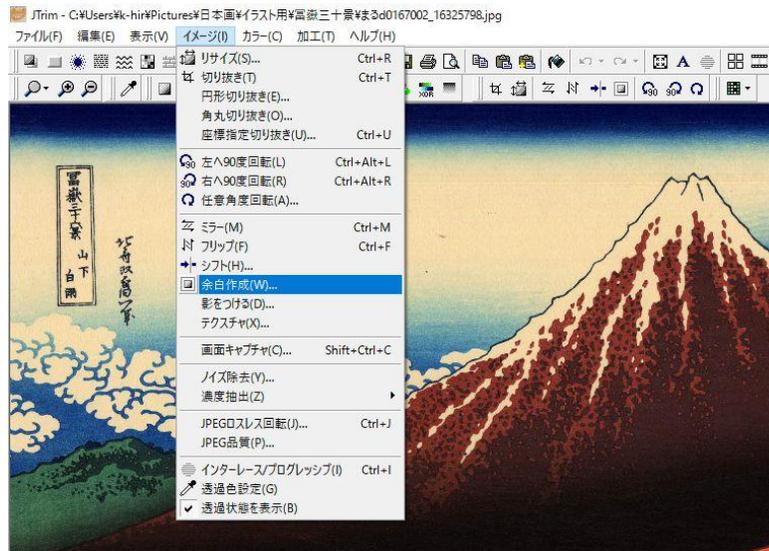
- Paint系の画像処理ソフトがあれば、「キャンバスサイズ」を変更して画像の周囲に白い余白をつくり、これを保存して利用する方が簡単かもしれません。

# 参考画像を背景に設定する方法 (Jtrimを利用する場合)

## 利点

- 参考画像の位置が固定される。
- 図形のグループ化の際に参考画像誤って選択するようなことがない。
- 新しいスライドを作成する場合も同じ背景にすることができる。

2. Jtrimで参考画像を読み込む→余白の設定へ



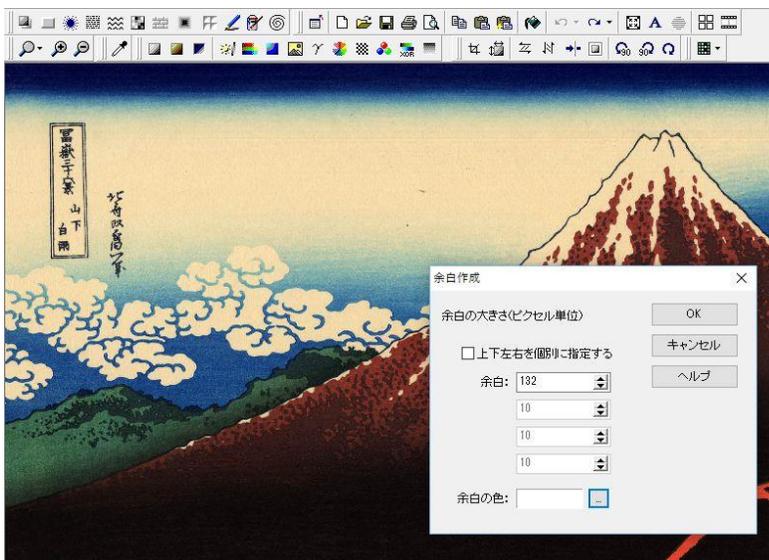
4. 余白が付加された画像→名前を付けて保存



1. 参考画像の横縦のピクセル数を調べる



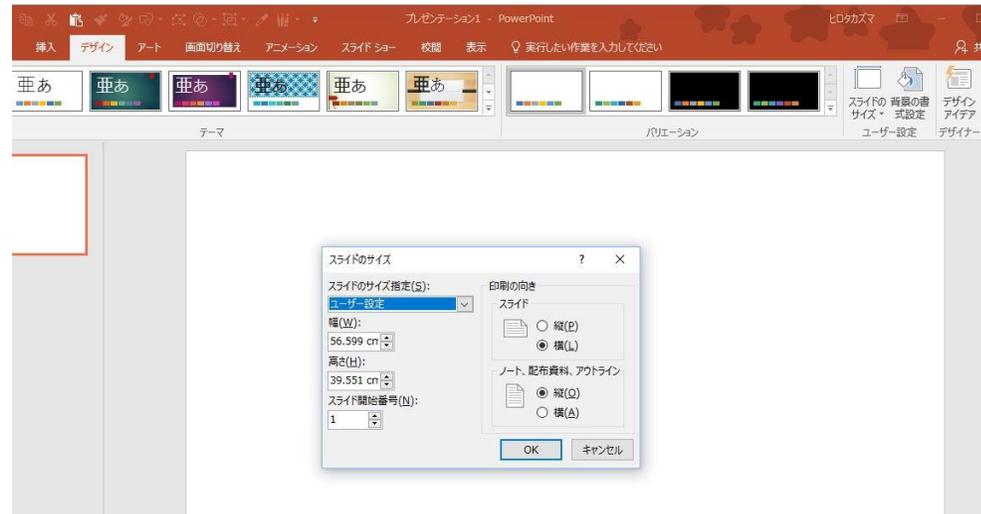
3. 余白サイズを指定：画像サイズの10%程度



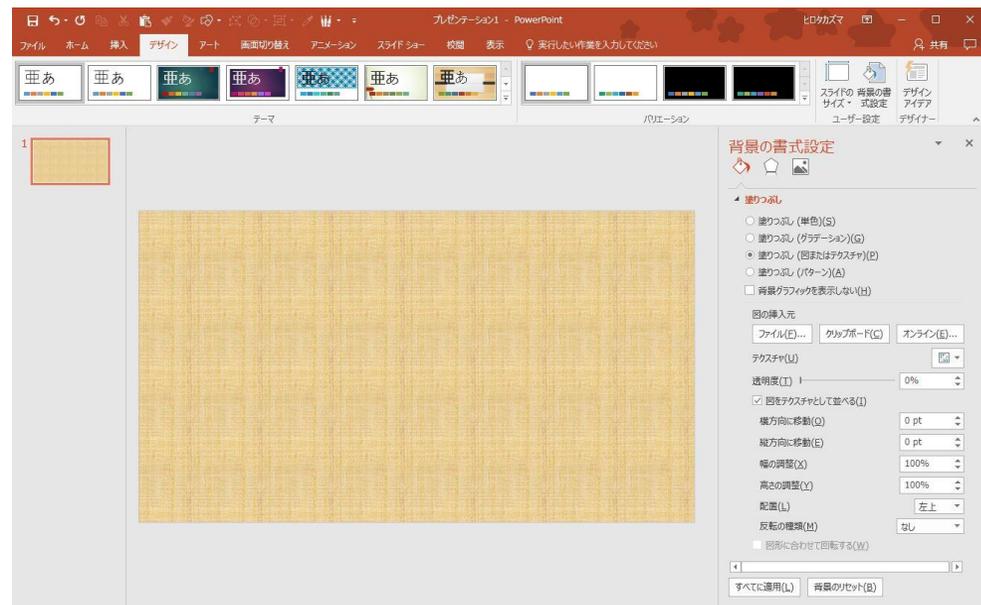
5. 保存された画像の確認→画像サイズの確認



6. パワーポイントで「スライドのサイズ」を指定⇒縦横比を余白付参考画像」の縦横比に合わせる



7. 背景の書式設定⇒塗りつぶし⇒図の挿入元（ファイル）を選択



8. 余白付の参考画像が背景に設定された

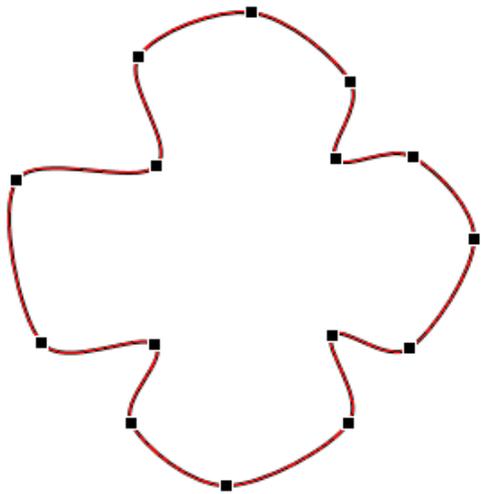


9. 新しいスライドも背景を同じにする場合はペーストの際に「元の書式を保持」にする

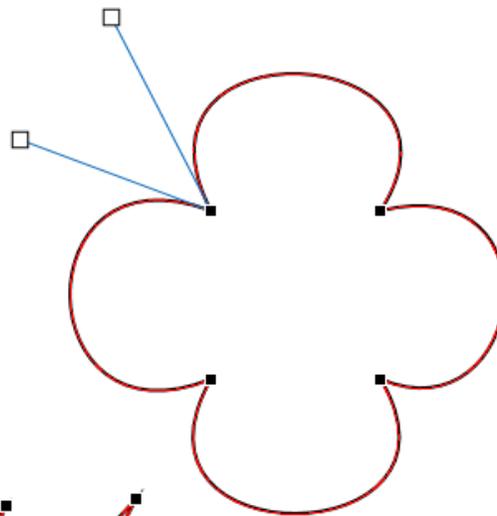


## 曲線とフリーフォームの使い分け

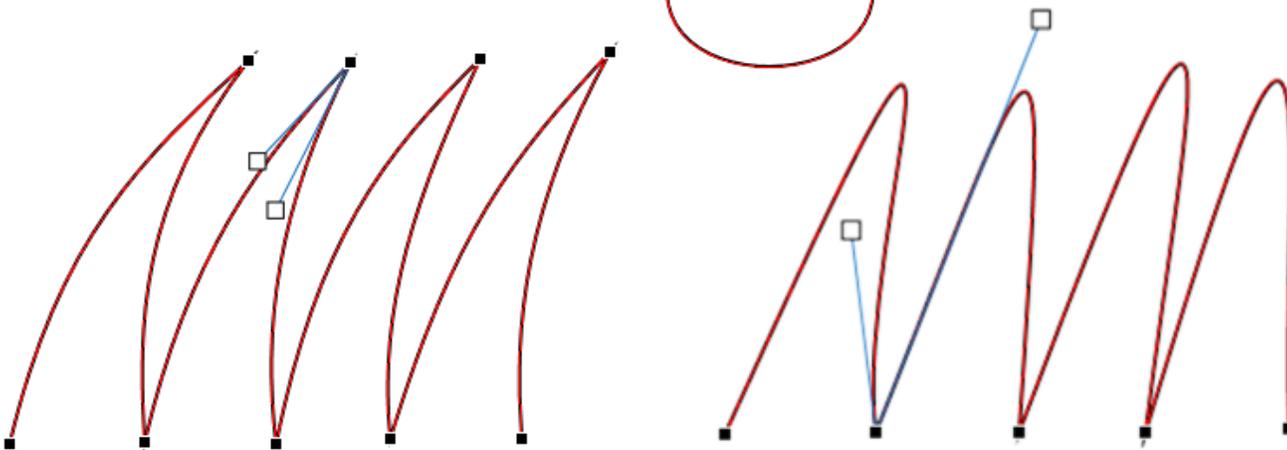
- 曲線だけの図形や鋭角点が少ない場合には「曲線」を使用する。



- 鋭角点が多からずある場合には「フリーフォーム」を使用する。
- 「曲線」を使用すると、鋭角点を「頂点を基準にする」操作の手間が増える。



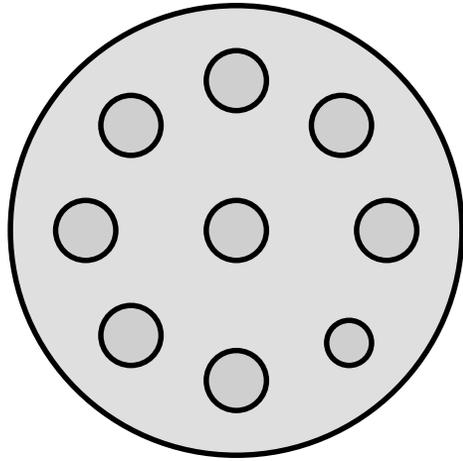
- 「曲線」で描く場合、頂点は自動的に「頂点を中心にスムージング」になる。
- 「フリーフォーム」で描く場合、頂点は「頂点を基準にする」に設定される。



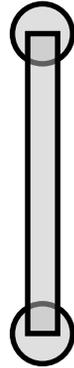
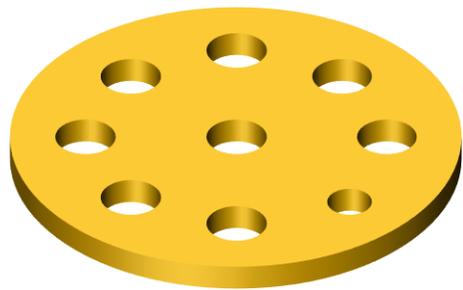
- 曲線部分にはできるだけポイントを作らず、ハンドル操作で曲線を作るようにする。

# 複雑な図形を「図形の接合・切出し」でつくる

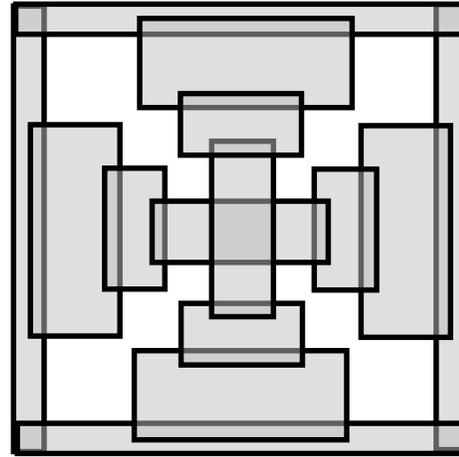
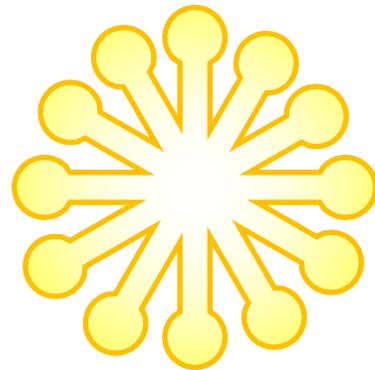
一度に複数の図形の接合や切出しができます



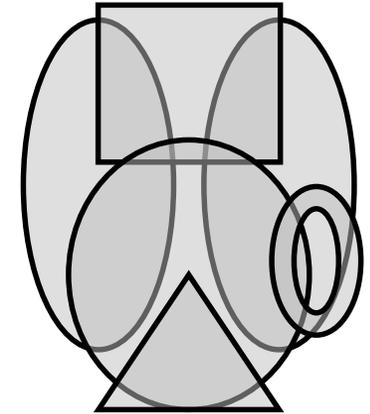
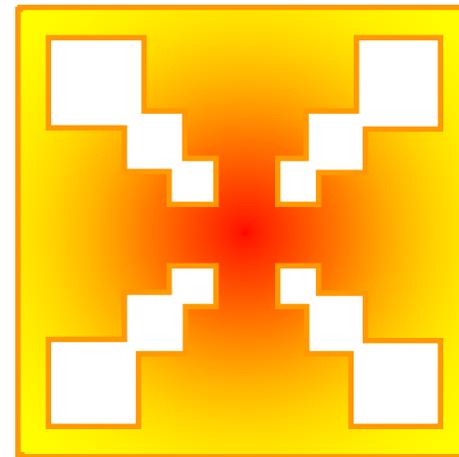
円に多数の小さな円を描く →  
一度に単純切出し → 奥行を追加 → Y軸方向に回転



二つの円と縦棒を接合し  
たものを5つ複製し、30度  
ずつ回転してから一度に  
接合



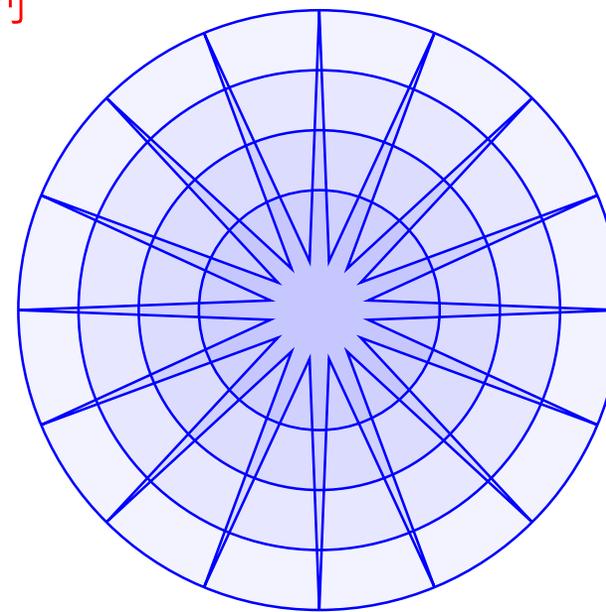
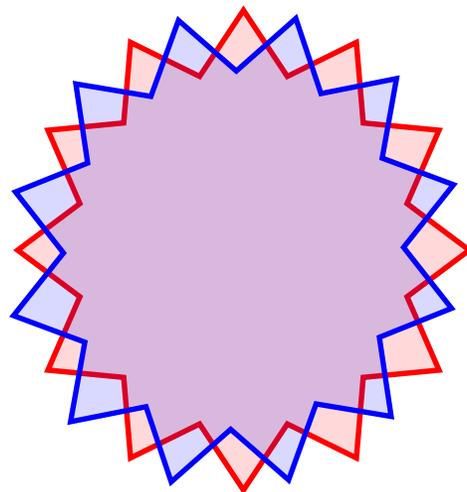
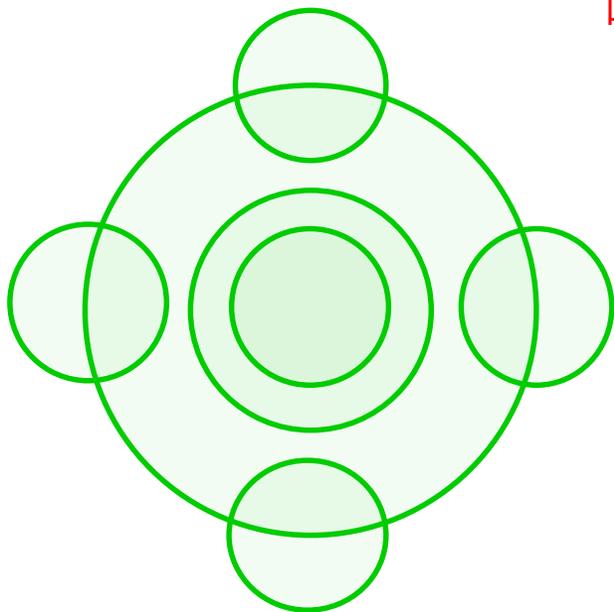
多数の長方形を一度に接合し  
てひとつにする



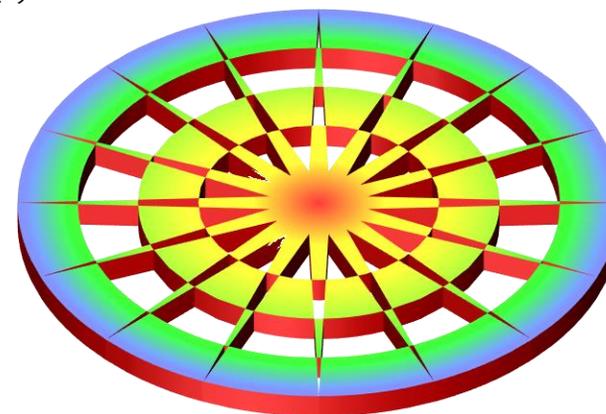
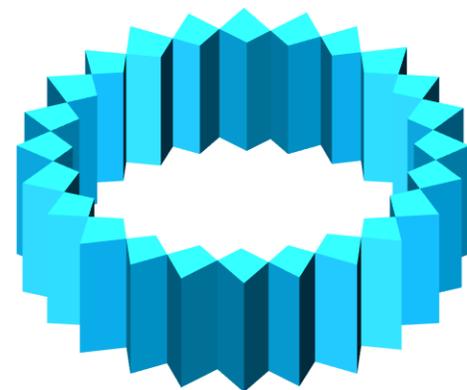
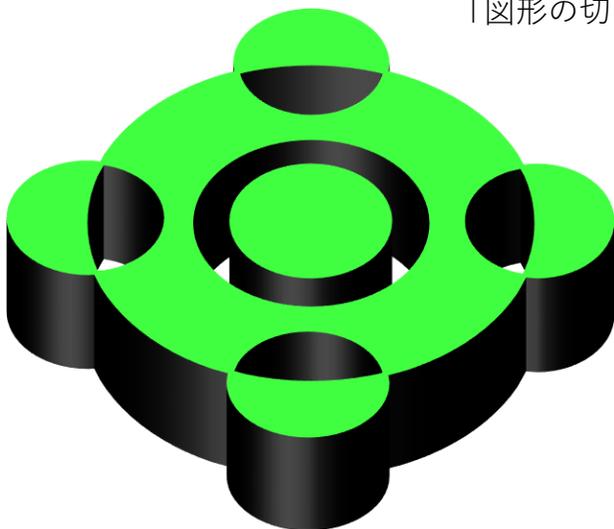
図形の切出し (2つ) →  
接合 (4つ) によって作成



## 図形の「型抜き/合成」の応用例

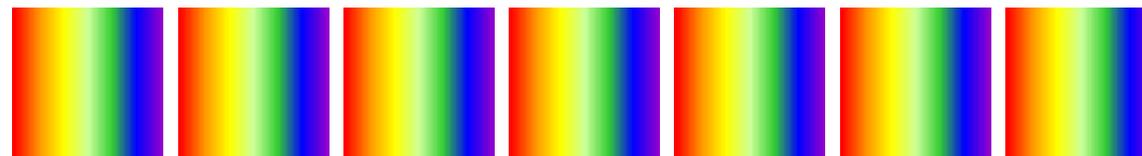
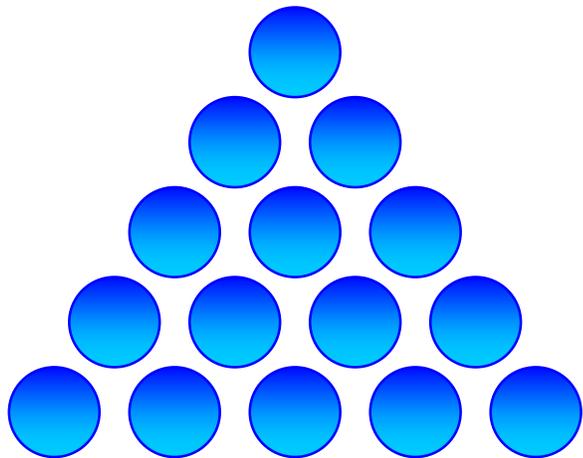


- 図形の結合で「型抜き/合成」→3-D書式で「奥行き」→3D回転で「Y軸方向に回転」
- PowerPoint2013以前のバージョンには「型抜き/合成」の機能はありませんが、「図形の切出し」→不要部分を削除→「接合」の手順で同じ加工ができます

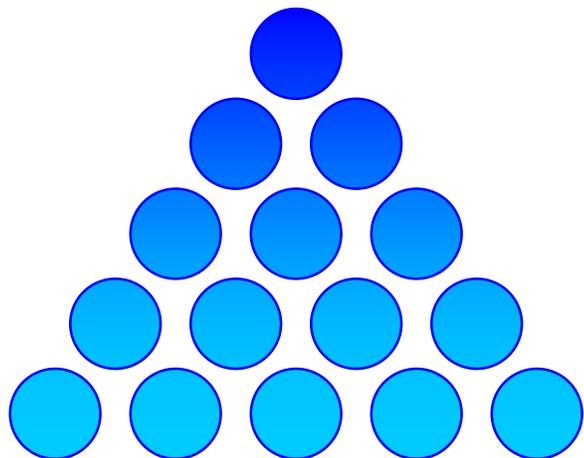


# 接合された図形のグラデーション

「グループ化」された図形にグラデーションをつけた場合



離れている図形も「接合」できる  
「接合」された図形にグラデーションをつけた場合



## 図形に挿入した画像のトリミング

図の書式設定→図→トリミング

図の挿入時の状態



縦方向に移動



高さを変更



横方向に移動



幅を変更



適当な位置とサイズに変更

